

## 美術館準備班だより

— 作品紹介 (十七) —

小杉放庵

「水亭」

昭和七年 紙本、着色

一九三二年(昭和七年)に日本橋の三越百貨店で開催された、放庵の水墨画による個展に出品されたことが確認されている紙本の作品です。放庵の他の多くの水墨画と同様に、遠景の山並みや、画面



中央部の水辺の二階建ての家屋、あるいは、水上に張り出した四阿と、そこに繋がれた舟などに淡い色彩が施され、画中の微妙なアクセントになっていますが、やはり、この作品の見所は、風にそよぐ柳の葉を、冴えわたった筆致によって軽やかに表現した高度な技術や、点景人物の、伸びやかで自由奔放な墨線による描写でしょう。

さらに、この作品で注目すべき点は、画面の中央に墨で柳の木を描き、その周りをぐるりと囲むようにして、左右に主要なモチーフ

フを配したその構図です。中国や日本の古い時代の主に水墨で描いた山水画には、一種の遠近法として、高遠、深遠、平遠の、三遠の法という画面の構成原理が伝統的にあり、この作品も、そのうちの平遠の法にのっとった、すなわち、山の上から遠方を俯瞰的に望みしたような構成になっています。しかし、放庵の場合、ここでもその伝統にとらわれているだけではなく、水墨による大きな柳の木という、画面の上では真つ黒な大きな塊で表現されるモチーフを作品の中心に置いた大胆な構図により、放庵ならではの特色を出しました。

これは、東洋画の伝統にも、西洋画の歴史にも、全くと違っていいほど例のない放庵に独自の画面構成で、以前にこの欄で紹介した「柳下閑談」など、大正中頃から昭和初期までの放庵(未醒)の日本画作品によく見ることが出来ます。画面を上から下へおおまかに3つの部分に分け、その中段の部分に大きな量感を感じさせるモチーフを配するという思い切った構図をとりつつも、隅々にまで神経の行き届いた画面づくりにより、絵画空間の広がりを見事に表現し、実際の画面の大きさ以上の迫力を感じさせる、壮年期を迎えた放庵の心身ともの充実ぶりをうかがわせる作品といえるのではないのでしょうか。

## 西小来川

### 獅子舞収蔵庫

#### 竣工式

先に、平成七年度地域文化遺産保護事業の一環として、「西小来川獅子舞」の諸道具を保管する収蔵庫を改修され、四月二十八日(日)に関係者多数が出席して、竣工式が行われました。耐火構造や保管のための通気性を考え、収蔵庫の外壁は石蔵造り、内部は桧材で仕上げられ、蔵造用の二重扉が備えられています。



## 特定優良賃貸住宅の建設業者の募集について

栃木県では、民間の土地の所有者などが建設した良質な賃貸住宅を借り上げて、住宅が不足している中堅所得者層向けに供給する事業を行っています。

本年度に賃貸住宅の建設を予定されている方で、次の条件に合う方を募集いたします。

- ①募集戸数 県内で二〇〇戸
- ②募集地域 都市計画区域内で用途地域の設定がされている区域内
- ③応募条件

- (1)原則として平成八年度に工事着手が可能なもの
- (2)栃木県特定優良賃貸住宅制度等に適合するもの
- (3)栃木県住宅供給公社に管理委託できるもの

④募集期間 平成八年六月十日(月)から六月二十一日(金)

詳しくは、栃木県土木部住宅課企画融資係までお問い合わせ下さい。  
栃木県宇都宮市埴田 一〇一―二〇  
(☎)二八―六三―二四八三